

オニタビラコ (鬼田平子)

名前の意味：「鬼」の名は似ていて形が荒々しいものにつける。タビ
ラコは、水田に生える春の七草ななくさの一種「ほとけのざ」、現在の和
名でオニタビラコのことを示し、田んぼで葉を平たく広げて
いるということ表現している

分類：双子葉類、キク科、オニタビラコ属

(キク科の栽培植物さいばいしょくぶつ：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた(自生じせい)

特徴：地面を丸く覆おおうぎざぎざの葉、立つ茎、直径 7-8mm の小さ
な黄色い花、タンポポのような実

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：合弁ごうべん、5裂れつ (たくさんの花が集まってひとつの花に見え
ている。1つの花の形は小さくてよく見えない)

花の時期：4—7月

見分け方：セイヨウタンポポとは、花が小さくて、1本の茎くきにたく
さんつくこと、葉に白い毛が多く生えることで区別できる。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度そうごうなんいど ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)